

SAVE NAKAICHI DONATION PROJECT

www.save-nakaichi.com

難病と闘う
なかいちに
肝臓移植を。

目標金額
7500万円

募金 にご協力
をお願い
いたします。



38歳、彼は「余命2年」と告げられました。私達の大切な友人、中市好昭さんは22歳で突然肝炎を患いました。はじめは重病とは気づきませんでした。ただ「ひどく疲れるなあ」と。病気と共に存しながら、仕事に励みました。私生活でも愛する女性に巡り会い、結婚からわずか5ヶ月、幸せいっぱいの生活を過ごしていたある日。彼は、体調の悪化で診察を受けた医師から難病「原発性硬化性胆管炎」「自己免疫性肝炎」を併発し余命を告げられたのです。死を覚悟し「愛しているから、別れよう」と決心した好昭さんに、妻、明子さんは応えました。「愛しているから、別れない」。二人の闘いの日々が始まりました。東京で、故郷石川で、毎日、死の恐怖に震えながら懸命に治療を続けました。そして慈恵医大の主治医から、残された治療法は肝移植しかない事を告げられます。しかも日本での移植はほぼ不可能、残された可能性は海外での移植しかありません。友人である私達も、みなさまの温かなお気持ちに、すごることしか出来ないのです。苦しみながら周囲に見せる彼の笑顔を消さないで下さい。どうか、彼の未来を助けてください。

なかいちさんから

僕

の身体がこうなって、15年ほど経ちました。今ではもう、身体が病気の影響でダルいとか、疲れ易いとかも分からなくなるくらいこの病気と付き合ってきた気がします。幸いにも僕は、妻や沢山の友人に支えられ、募金を募る体制が整い、病院の助けもあって、アメリカでの臓器移植を受けるという手前までなんとか辿り着くことができました。辛いことが沢山ありました。38歳、人生の最も勢いのあるこの時に、自分のやりたい事が全くできない苛立ちや悔しさ。僕にはまだまだやりたい事が沢山あります。仲間と共に世界中様々な人々と一緒に、映像を通してふれあう事、考える事。世界中に影響を与える仕事に携わる事。それだけではありません。家族のような沢山の友人と幸せを共有する事、そして、子供を作り、妻と共に幸せな家庭を築く事などなどまだまだやりたい事が沢山あるのです。それを実現するには僕には臓器移植しか手段は残されていませんでした。この病気になっていずれ回復する為の手段は臓器移植しかないとは聞いていましたが、自分の中でもそれをすんなりと受け容れることはなかなか難しく、自分にとても現実感の乏しいものでした。ですが、次第に病状が悪化し余命を伝えられ、それが現実のものとして受け容れざるをえなくなりました。だから僕はやり残した事を夢のまま終わらせる事なく、それを現実のものとする為にも臓器移植をすることを決断したのです。日本には僕と同じ病気や他にも様々な病気で苦し

み臓器移植を必要とする人達が沢山います。そして日本でも臓器移植を受ける事は出来ます。そういう人々を救う為に、多くの関係する方々の努力や尽力のお陰で、日本の臓器移植の体制も近年ではどんどん整えられていくそうです。ですが多くの人を救う為にはまだ充分ではなく今後更なる改革や改善が必要とされていると思います。日本の医療は日進月歩、もの凄い勢いで発展し、また、健康保険の制度もあり、全ての人が平等に医療を受けられていると思います。臓器移植に関しても今よりもずっと多くの人が受けられ多くの命が助かる様な状況へと変わっていくでしょう。ですが、僕にはそれを待っている時間はあまり残されていませんでした。本当は日本で手術を受けたい。ですがそれにはまだ時間のことや越えなければならないハードルがあります。だから僕は渡米しての臓器移植を決断しました。幸いにもこうして多くの支えとなってくれる妻や仲間が僕には沢山いました。信頼する仲間、家族、そして支援してくれる皆さんに僕はすがるしかありません。どうか、僕の命を救って下さい。



なかいち よしあき
中市好昭 (VJ NAKAICHI)

2016年2月24日 中市好昭

病気の症状

- 倦怠感、食欲不振、体がかゆい、黄疸、睡眠不足、むくみ。
一番悪い場合は胆管炎、肝性脳症を引き起こしたりもします。



1. 「原発性硬化性胆管炎」(指定難病)
2. 「自己免疫性肝炎」(指定難病)

両病気とも指定難病であり、原因不明の病気です。
現在、余命2年と言いつて渡されております。

日本を代表するVJ(ビデオジョッキー)として数々のイベントやフェスティバルに出演。代表的なものには、DJ EMMAがレジデントを務めていた「TROUBLE☆HOUSE」や日本最大のテクノパーティー「CLASH」、WOMBが主催したフェスティバル「WOMB ADVENTURE」やシンガポールで開催されているアジア最大のビーチフェスティバル「ZoukOut」などがあげられる。また、さまざまなコンサートにおける映像演出や、TOYOTA、NISSANなどのショー映像／展示映像を務めるなどクラブシーン以外でも活躍している。

渡米する理由

→元慈恵医大、現山王病院の銭谷幹男医師の指示で、東京慈恵医科大学付属病院での治療をうけていますが、根本治療は移植手術しかなく、慈恵医大の外科医師、柴 浩明医師の紹介で、アメリカでの病院を紹介していただいて、移植に向けての準備を進めています。治療には「肝臓移植」でしか方法がないとされており、よしあきさんの場合、生体肝移植は再発の可能性が高い為、脳死ドナーからの提供になってしまします。日本では移植待ちの患者が多い事や、脳死ドナーからの臓器提供が近年、可能になったものの、まだまだ日本での移植手術は極めて難しく、今回の海外での移植という手段をとるしかありません。

募金にご協力を。

募金の使用用途

医療費	63,840,000 円
渡航費	1,200,000 円
滞在費	5,000,000 円
事務費	3,000,000 円
諸経費(予備費)	2,000,000 円
合計	75,040,000 円

《口座名》ヨシアキサンヲスクウカイ (よしあきさんを救う会)※

*振り込み先名「ヲ」が使えない場合は代わりに「オ」を入力してください。 *よしあきさんを救う会として、各家庭を個別訪問して募金のお願いに伺う事はありませんのでご注意ください。

三菱東京UFJ銀行 三軒茶屋支店 普通 0190810

世田谷信用金庫 池尻支店 普通 0615918

北國銀行 東京支店 普通 1754

ゆうちょ銀行(ゆうちょ銀行から) 記号 10140 番号 58073671

ゆうちょ銀行(他の金融機関から) 店名 018店 普通 5807367

難病と闘うよしあきさんに 肝臓移植を!

募金にご協力お願いいたします。

募金目標金額

7500万円



38歳、彼は「余命2年」と告げられました。

私達の大切な友人、よしあきさんは22歳で突然肝炎を患いました。はじめは重病とは気づきませんでした。ただ「ひどく疲れるなあ」と。病気と共に存しながら、仕事に励みました。私生活でも愛する女性に巡り会い、結婚からわずか5ヶ月、幸せいっぱいの生活を過ごしていたある日。彼は、体調の悪化で診察を受けた医師から難病「原発性硬化性胆管炎」「自己免疫性肝炎」を併発し余命を告げられたのです。

死を覚悟し 「愛しているから、別れよう」と決心したよしあきさん。

妻は応えました 「愛しているから、別れない」二人の闘いの日々が始まりました。

東京で、故郷石川県加賀市で毎日、死の恐怖に震えながら懸命に治療を続けました。

しかし、2015年秋、とうとう肝性脳症を引き起こし倒れてしましました。

そして慈恵医大の主治医から、残された治療法は肝移植しかない事を告げられます。

しかも日本での移植はほぼ不可能、残された可能性は海外での移植しかありません。

それには莫大な費用がかかります。若い二人がどんなに掻き集めてもたりません。

友人である私達も、みなさまの温かなお気持ちに、すぐることしか出来ないです。

苦しみながら周囲に見せる彼の笑顔を消さないで下さい。

どうか、彼の未来を助けてください。

《口座名》ヨシアキサンヲスクウカイ（よしあきさんを救う会）

北國銀行 東京支店 普通 1754

ゆうちょ銀行（ゆうちょ銀行から）記号 10140 番号 58073671

ゆうちょ銀行（他の金融機関から）店名 018 店 普通 5807367

三菱東京UFJ銀行 三軒茶屋支店（普）0190810／世田谷信用金庫 池尻支店（普）0615918

※振込先名「ヲ」が使えない場合は代わりに「オ」を入力してください。

※よしあきさんを救う会として、各家庭を戸別訪問して募金のお願いに伺う事はありませんのでご注意ください。

お問い合わせ先

詳しくはホームページまで

よしあきさんを救う会 事務局 www.yoshiaki-san.com

154-0004 東京都世田谷区太子堂4-18-16 三松荘 206

電話/FAX:03-6804-0066 受付時間11:00~15:00

メールアドレス info@yoshiaki-san.com



特定非営利活動法人
日本移植支援協会

支援:NPO 特定非営利活動法人 日本移植支援協会(内閣府認証)